



熊本市 感染症発生動向調査 速報

インフルエンザが引き続き警報レベルです

熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、38.24(定点数25ヶ所、患者報告数956人)となり、先週より減少したものの、まだ警報レベルを超えています。引き続き、手洗い、咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。

インフルエンザ脳症って知っていますか？

インフルエンザ脳症とは、インフルエンザをきっかけとして生じた脳症でインフルエンザの重い合併症の一つです。インフルエンザの流行のピーク時や流行の規模が大きいほど報告数が増加します。

小児の報告例が多いのですが、成人の報告例もあり、注意が必要です。

発熱から急速に症状が悪化する場合がありますので、注意深く観察する事が大切です。

症状としては、発熱などに加え、頭痛、嘔吐、けいれん、頂部硬直(首の後ろが硬くなり、前へ傾かなくなる)、意識障害、異常言動、異常行動などがあります。少しでもおかしいと思ったら、医療機関を受診し症状を詳しく伝えましょう。

異常行動や言動の例 参考文献 厚生労働省「インフルエンザ脳症ガイドライン【改訂版】、国立感染症研究所「インフルエンザ脳症について」

・事故につながったり、他人に危害を与えたりする可能性がある異常な行動。

(例、自分が知らないうちに、靴をはいて外にでていた。外に飛び出し、小川に飛び込もうとした。高いところから、飛び降りようとした。夜間に 母親を包丁をもって襲おうとした。)

・幻視・幻覚・感覚の混乱

- ・存在しないものが見えている様子 (例、ついていないテレビを見て「猫が来る」「お花畑がみえる」)
- ・居るはずがない家族や親類、友人、知人などがいると言う。
- ・目の前にあるものが見えない様子 (例、そばにいるのに「ママ近くに来て。」と話す。)
- ・よく知っている人を間違える (例、父親を「お姉ちゃん」という。)
- ・身体の感覚が正しく認識できない (例、突然「回る回るよ」と叫ぶ。)
- ・自分のいる状況が把握できない。 (例、病院に行く準備をしているときに公園に行くと言う。)

・うわごと・歌を唄う・無意味な動き (例、舌を何度も出す。おかしなげさを繰り返す。話そうとするが言葉が出ない)

・おびえ・恐怖・怒る・泣き出す・笑う・無表情・無反応 理由も無くおびえる。 など

期 間		平成30年 5週		平成30年 6週	
		1/29～2/4		2/5～2/11(最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1296	51.84	956	38.24
RSウイルス感染症		7	0.44	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)		3	0.19	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		40	2.50	28	1.75
感染性胃腸炎		78	4.88	78	4.88
水痘(みずぼうそう)		1	0.06	0	0.00
手足口病		9	0.56	8	0.50
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		13	0.81	8	0.50
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		2	0.40	12	2.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00